

総合の動き「この

8年」で見えてきたこと

教育の転換への大きな一歩

ベネッセ未来教育センター所長 高階玲治

「総合的な学習」の最大の功績は、教師それぞれが自前でカリキュラムを創ることになったことであろう。「自前の創造」は時代の背景が確実にあって地方分権や特区の形がそうである。また、それ以上に大切なことは「学力形成」を基礎学力や思考力・表現力などの機能的学力にとどまっていたものを、課題発見、課題追究、成果発表という課題解決能力を身につけるように広げたことである。未来志向の学力形成がかなり可能になってきた。

また、学習の場も地域に広がり、多様な人材、社会環境、自然環境などと広がりができたことも大きい。これまでの学校が「自校の教師のみで自校の子どもを教える」という一種閉鎖的な学習環境で終始してきたが、子どもが求めれば多様な学習環境で学べるようになった意識転換は大きい。インターネットなどの情報化が一層促進させている。

一方、これまでの教育課程を超えた、たとえばキャリア教育や金融教育などの新たな教育要請も生まれていて、そのような課題にどう対応するかが課題になる。

社会の急激な変動に対して「社会の変化に主体的に対応する能力の育成」は前々回の教育課程に掲げられた課題であるが、それがようやく実質化し始めたと言える。

総合的学習で確かな学力を伸ばす

愛知教育大学助教授 野田敦敬

まず、「自ら課題を見付け…」で始まる総合的学習であったが、学級内で個々ばらばらの課題では、対応できないことが分かってきた。一つの課題に学級全体で取り組むことによって、学びが深まる。そのためには、学級全体で取り組むに値する課題であるのかを見極める行き届いた教材研究が重要である。

次に、「体験↓発表↑体験↓発表」の総合的学習では、「自己の生き方を考える」までは、到底たどり着かないことも分かってきた。発表会の後に「話し合う」場面を位置付けることで、共に高め合い、認め合う中で、気付き深まったり、知の総合化がなされたりして、自己の生き方を考えることにつながる。

また、移行期前は、教科合科的に試行された総合的学習だが、いつしか教科から離れ独立していった。しかし、「確かな学力」論争の中で、教科との関連が強調されるようになった。上辺のみでこじつけの関連でなく、子供が教科学習の有用感を抱くよう追いつ込む必要がある。

最後に、評価問題である。借りてきた評価の観点を設定してあるために、教師間の共通理解どころか何を評価すればよいのか明確でない。より具体的な評価の観点を設定しないと確かな学力の育成にはつながらない。

目標・内容は書き分けられているか

福岡教育大学教授 寺尾慎一

学習指導要領の一部改正で、総合的学習の充実が明記された。潰されなくてよかった、という気持ちである。

これにより、教科の知識・理解はできるが、実生活への適用や応用が効かないといったいわゆる「教科書秀才」を超え出る、真の学力形成の機会が保持された。ここを今度こそ有効に活用したいものである。なぜなら、総合の学びには学びの手順やスキル、発見や感動による意欲の喚起、見識や展望、勇気や自信の獲得等、次世代学力の育成と呼ぶうる可能性が秘められているからである。

だが、そのためには、教師が努力しなければならぬ。まずは、総合でする学びの目標と内容をはっきりさせることが重要であり、基本的な指導過程を明確化することが重要である。と言うのも、ここが明確でないために、「活動あつて学びなし」「小学校でする学びよりも程度が低い」「総合学習は知識習得を軽視したお遊びだ」などと揶揄されているからである。「目標」と「内容」はどこが違うのか。学習指導要領に述べられた各教科等の場合を参考に、総合でする学びの「目標」と「内容」をぜひ、書き分けて欲しいのである。また、テーマの違いを超えて、「基本的」と呼べる総合の学びの指導過程に関する論議を詰めて欲しい、と考えている。

子どもの生きる未来からの要請に挑む責任と気概を

静岡大学教授 馬居政幸

小学校は工夫して成果を、中学校は形だけは整えたが、高校はどうするか悩めば良いほう。皮肉ではない。学力低下批判の中で開始した割には進んだのでは。これが総合の現状への実感である。現場、特に小学校の先生方の努力に敬意を表したい。だがこの感想は期待度が低かったから。本来の課題が尺度なら小学校すら道半ば、と言わざるを得ない。理由は総合新設の背景に異質な二つの要請があること。一つは生活科を引き継ぐ個性や活動・体験重視の学習拡大。二つは国際化、情報化、少子高齢化などの現代的課題に応ずる学習導入。小学校の成果は前者中心、問題は後者の実現度である。このように書くとは知識教授の再開かとの批判がある。だが考えてほしい。高齢化率三十五%の未来の現実と格闘する者に必要なカリキュラム創造の責任を回避する理由に、個性や体験重視を用いていないか。ただし二つの要請は表裏の関係。現代的課題は既存教科の学力観では対応不能。いずれも現場の実践への参加学習を経由しなければ獲得できない知識と技術から構成されるからである。学区を共有する小・中・高の教師が同じテーブルに着き、地元で活躍する専門家の助けを得て、学習者の多様性と可変性に応じる新たな知識と技術と学習方法の開発に挑む時である。



▲地域のお年寄りの人々と楽しいふれあい活動。思い出は写真館に展示。p. 32

（佐賀大学文化教育学部附属小学校 片瀨文徳）

友だちいっぱい 世界にいっぱい（三年生）
空き教室を利用してのミニ発表会。後方に「流れ図」の掲示。ポスター「オリオ」あり（福井市立西小学校 山岸喜代美）



池谷の竹で食器を作って楽しむ。

（市場町立市場小学校 藤本勇二）

GISの活用で世界を見よう



Web-GISのひとつ、マクドナルドの立地風景を表示している。p. 22
（名栗村立名栗中学校 福田英樹）

2004年

特集

来年度カリキュラム―新動向どう入れるか

総合の将来像・次期改定でどうなるか

中野重人／加藤幸次／高浦勝義

来年度カリキュラムづくりのコンセプト

いま、総合に求められているもの……天笠 茂／西尾 一／館野健三／江間史明
総合で何をやるか・何が出来るか……秋田健一／田中博之／前田康裕／椿原正和
総合の動き「この8年」で見えてきたこと……高階玲治／寺尾慎一／野田敦敬／馬居政幸

新動向をキャッチした来年度カリキュラムのヒント

地域づくり推進と来年度カリキュラムのヒント……小林毅夫
発展学習と来年度カリキュラムのヒント……北 俊夫
奉仕活動と来年度カリキュラムのヒント……新富康央
インターネット活用と来年度カリキュラムのヒント……福田英樹
英語を使える日本人と来年度カリキュラムのヒント……大森 修
伝統文化こども教室と来年度カリキュラムのヒント……柴崎直人
環境基本計画と来年度カリキュラムのヒント……吉田高志
栄養教諭創設と来年度カリキュラムのヒント……小西文子

タイプ別総合カリキュラムのモデル例と自校化のヒント

生き方探究型のカリキュラムづくりのヒント・小学校／中学校……片瀨文徳／生稲 勇
体験活動型のカリキュラムづくりのヒント・小学校／中学校……高橋 励／久野弘幸

新動向を入れたカリキュラムづくりのために

国際理解教育どんな動きがあるか……安野 功
環境教育どんな動きがあるか……平山明彦
福祉教育どんな動きがあるか……木原活信
情報教育どんな動きがあるか……水野正司
健康教育どんな動きがあるか……藤本勇二
来年度カリキュラムの青写真づくり―何を検討しておくか
教務主任がする総合カリキュラムの検討点……山岸喜代美
研修主任がする総合カリキュラムの検討点……井上好文
学年主任がする総合カリキュラムの検討点……甲本卓司
学級担任がする総合カリキュラムの検討点……西岡美香

連載

総合で追う「なりたい自分」と「なれる自分」を広げる⑦……市川伸一
「総合」が学校を開く―大学や地域との連携……奈須正裕
総合的学習「十二の間違い探し」夢を語れない、あるいは無駄に真面目……齋藤 勉
川が汚い 汚い川だ―あなたの総合はどちら？⑦……藤井千春
ナラティブによる意味づけ……成田喜一郎
授業記録を起こすこと……佐桑 徹
中学校の総合―「知的探究」の構想⑦……78
アメリカのひかりとかげと多様性を探る／多様性Diversityの織りなす正のエネルギー……76
総合で仕掛けるキャリアガイダンス 子どもの夢を育む「世の中仕事カタログ」⑦……74
家電の歴史、ふしぎを楽しく学ぶ……72

表紙イラスト／バン・プー・クリエイションズ